## 正誤表

万全を期して作成したつもりですが、初版で既にいくつか間違いのご指摘をいただいております。ご指摘に御礼申し上げ、また、ここにお詫びして修正をご報告いたします。

page	誤	正	解説
p.6	R コード n <- 2500	n <- 25	テキストでは $n=25$ の例として示していましたが, コードは続く $n=2500$ の例を実行するものになっていました。
p.6 5	実際に帰無仮説が採択	実際に帰無仮説が棄却さ	
行目	される	れる	
p.6 6 行目	有意水準α = 0.05 以下	有意水準α = 0.05 未満	
p.7	データが当初の倍にな	データが当初の3倍にな	
コード 内のコ メント	るまで増やし続ける	るまで増やし続ける	
メント p.10 (下	わかりやすく書いる	わかりやすく書いている	
から 5 行目)	書籍	書籍	
p.18 L7	B は A と同じく x を 3 列 2 行に	B は A と同じく x を 3 行 2 列に	row は行,col は列です。失礼しました。
p.18	R の出力の要素が全て 0 になっている	1 から 24 までの数字が順 に入ります。	array 関数が配列を指定するものです。
p.26	R コード Species = "setosa"	Species == "setosa"	等価演算子は==です
p.26-27	出力	コード	右肩に「出力」と書かれているブロックは、「コード」 が正しいです。
p.35-36	出力	コード	右肩に「出力」と書かれているブロックは、「コード」 が正しいです。
p.26 脚注 8	magritter パッケージ	magrittr パッケージ	
p.40	決して実行しないでく ださいのコード	変更なし	R ではカウンタ変数は別途割り当てられるので、永久 ループにはならないそうです。しかしプログラミング言 語として、一般的に避けるべき作法です。
p.41	R が永遠の計算ループ から抜け出せなくなり	抜け出せなくなることは ありませんが、おかしな	両方iで回すと、内側のiループが外側のiループ分繰り返されるという動きになります
AC	ます。	挙動になります。	
p.46	$R \supset -F$ ifelse(a > 10, print("a >	print() は不要です	
	10"), print("a		
	<=10"))		
p.47 脚注 22	\$!	本文中のコードと同様 に、\ や\ \	
p.49	モジュロ;odulo	モジュロ;modulo	
p.80	$R \supset - F MC_{demo}()$	<pre>mc_demo()</pre>	
p.104	R コード最後の行内 df(line_x,df1 = nu_1, df2= nu_2)	<pre>df(line_x,df1 = 1, df2= nu)</pre>	これに伴い、図 3.29 の曲線もわずかに変化します(ヒストグラムに変化はありません)。
P.124	図 4.2 の結果を導いた	図 4.1 の結果を導いた	
P.134	R コード var_p	<pre>var_p()</pre>	R のネイティブパイプは、関数 () の形に渡すことが必要です (magritter のパイプ演算子%>%であれば問題ありません)

1

page	誤	正	解説	
P.142 本	サンプルサイズ $n$ が $4$ 、	サンプルサイズ $n$ が $4$ 、		
文下か	10、100 と大きくなる	20、100 と大きくなるに		
ら3行目	につれて	つれて		
P.143 図			誤った画像ファイルが挿入されていました。コードを実	
4.14			行して出力される図が正しいです	
P.152	df = n - 2	df = n - 1	p151 の数式と対応するので、-1 が正しいです	
コード				
最終行				
P.182	Rコード	<pre>cor.test(dat_obs[,</pre>	出力も [1] 0.3787639 0.8187475 となります。	
	t.test(sample_r)\$conf1]intdat2dbs[,			
		2])\$conf.int[1:2]		
P.181	パーセンタイル信頼区	今回はパーセンタイル信	ここは一般的に狭くなるわけではないので。	
	間の方が広くなってい	頼区間の方が狭くなって		
	ます。	います。		
P.182	Fisher の Z 変換の上限	上限は0.5897387,下	R のコード変更に伴って修正させていただきます。	
	(0.4973) と下限	限は0.4217412		
	(0.5011)			